

第2回 川崎と沖縄

平成22年11月5日(金) 18:30~20:30

川崎区役所 7階第1会議室

仲宗根 修 (川崎沖縄県人会会長)

■講師経歴

琉球政府警察局に昭和29年から44年まで在職

昭和44年にパスポートで来川、平成10年まで会社に勤め、定年退職。平成18年から川崎沖縄県人会会長、現在に至る。

財団法人神奈川県沖縄協会理事長。その他、琉球古典音楽(宮廷)師範、沖縄県指定琉球古典音楽野村流保存会伝承者認定、琉球新報社主催古典芸能コンクール審査員、川崎沖縄芸能研究会相談役、野村流音楽協会関東支部長。



□琉球(沖縄)の歴史

私は高校時代から宮廷音楽、琉球古典音楽を勉強していました。自然に、いつの時代に生まれたのだろう、王は誰だったろうと、琉球の歴史に興味を持つようになりました。自分であちこち学者の話の聞いたり資料をあさったりで得た知識です。皆さんの中に歴史に詳しい方がいたら、ちょっと違うのではないかなと思われる方もいるかも知れませんが、ご了承ください。

1 琉球王朝時代(12世紀から18世紀)について

琉球王朝時代、約12世紀から18世紀までの薩摩に侵攻されるまでは、沖縄は大変に豊かな島でした。「琉球国は南海の勝地にして優れた場所にあり韓国に学び、中国の援助を受け、日本と親しく睦み、朝鮮、中国、日本の間であって舟をもって橋となし交流交易し、諸国から取り寄せた珍品が充満している」〈万国津梁乃鐘〉と漢文で書かれている。

2 1609年薩摩の侵攻後も18世紀前半まで表向きは琉球国で通した

1609年完全武装の薩摩の侵攻を受けました。無防備に近い琉球が薩摩に勝てるわけがないので、それに屈しました。それ以後は裏で薩摩が操る、言い方は悪いですが傀儡(かいらい)になり、王も薩摩が任命しました。

貝塚時代(神話の王統)に始って、11世紀後期のグスク時代、舜天王統から英祖王統そして察度王統、三山時代そして14世紀に入り尚巴志が三山を統一し即位しました。そのときに、城を首里に構えました。

1466年、尚泰久が死んだ後に、彼に奉えていた農民出身の金丸が王位即位します。これは無血クーデターで、歴史始まって以来農民が王に即位しました。それから第2尚氏王統の時代に入ります。

中国との進貢も13世紀頃から始まっていました。びん人というのは中国人のことで、36名が瓦製造などの技術指導で、琉球に移り住んでいます。その時代に、記録はないですが、三線も彼らが持ちこんだのだろうという説があります。

15世紀頃までは地の利を活かして、インドネシア、タイ辺りまで帆船で交易をしています。その頃は中国も半鎖国ということで、琉球国に交易をさせて、ある程度をもらうということだったようです。そこに目を付けたのが薩摩です。「琉球という宝の島がある」と。

それ以前も、15世紀頃からわれわれで言うとスパイですが、念仏集団を組んで各地を回り、情報を集め

ていました。確かに布教もしているし、芸も残っています。しかし実際は、侵攻するための工作員の集団だったと解釈しています。沖縄で盛んなエイサーも、福島出身の袋中憎人が残したとの記録があります。このエイサーというのは、神に奉納する群舞でした。今はショー化して、各地で演じています。

薩摩の侵攻で大変なことになります。交易で稼いだものを全て持っていかれる。中国からは、表向きは独立国なので、冊封使として王の戴冠式という名目で大挙して来ます。日本との付き合いがあり、中国との付き合いがあり、冊封使は3ヶ月、6ヶ月と滞在し困窮しました。無い袖は触れないということで、両先島に人頭税を課し、毒のある蘇鉄まで食べなければ生きていけなかったという時代に入ります。悲劇の島の始まりと言っています。首里の学者は、食べる物が無いから蘇鉄まで食べるように指導した。先島の学者はその反対なのです。人頭税が廃止されるのは、明治36年です。

1906年に琉球王府の江戸上りが始まり、その回数は18回です。江戸上りの時には必ず芸能団が随行し、楽器を奏でて江戸城に入ります。服装は異国風の服装をさせるわけです。われわれは、異国をも支配しているんだよと江戸市民に誇示したかったと解釈しています。

冊封使は22回です。すでに王を認可しているのに、その何年後かに形式で中国から来ました。冊封使が来る時には、薩摩を完全に隠したそうです。船は東海岸に馬天港という良い港があります。そこに隠す。薩摩役人は現在の浦添市城間に身を隠しました。6ヶ月も隠れているのは大変だったろうなと同情しますが、記録に残っています。あくまでも表向きは琉球国で、薩摩を隠しました。

3 明治、大正、昭和、明治5年に琉球藩となり、明治12年沖縄県として現在に至る

大正の時代は特筆すべき事が見つかりませんでした。

昭和になって、大太平洋戦争です。私は国民学校の2年生でした。この戦争を体験して、本当に怖い思いをしました。昭和20年4月1日米軍が沖縄に上陸して、日本で唯一の地上戦が行われました。広島も長崎もあるじゃないかと言う人もいます。それは事実ですが、女子どもを巻き込んで、地上戦があったのは沖縄だけです。残念ですが、皇軍は国民を守らなかったです。子どもながらも、敵の軍隊よりも日本の軍隊の方が怖かったことを記憶しています。

非戦闘員(民間人)が148,136人、学徒兵が12校で1,776名中876名が戦死した、女子は従軍看護婦10校457名中186名が戦死し、昭和20年6月23日に沖縄戦が終わります。終わってからも日本軍はスパイ容疑で島民を殺しました。公式記録として残っています。私は久米島出身で、駐屯する通信兵が40名ほどいました。21名が戦争で死亡しました。1人だけが戦死、20名は殺されたのです。敵に殺されたものではありません。終戦が来るたびに、悪夢が蘇ります。若い人たちが平和と言いますが、私は実際に体験したということで、風化させてはいけないと思っています。

昭和27年に米軍が、4月1日琉球政府を創立します。ほとんどアメリカの傀儡です。形だけの政府です。第二次大戦で本土の防波堤になり、今アメリカの北東の基地として最適の位置にあるようで、また、要石になってしまいました。沖縄には基地の75%があります。残念ながら、沖縄は大変ですねとよそ事のように言う政治家もいます。「普天間基地は雲のような話で国民生活には何ら影響はありません」と言いました。そこにいた人にくっつかかれて、撤回して謝罪しました。本音だと思います。マスコミがいるから謝っておけという印象しか受けません。

政権が変わったけれども、何も変わりません。民主党政権に期待しましたが、何も変わっていません。

□川崎と沖縄の歴史的関わりについて

川崎と沖縄の歴史的関わりについては、人的、文化的な側面があります。

江戸上りの芸能団の子孫が、大正時代から川崎に住んでいました。三線の先生が何名かおり、その末裔が川崎にいました。川崎と沖縄の関わりはその時代から始まっています。とくに関東大震災後は、職を求めて川崎の富士瓦斯紡績(現競馬場周辺)に、若い女性が大勢来ました。沖縄は土地が狭いため、次男、三

男は食べていけません。田、畑は長男の物だという時代ですから、川崎に出稼ぎではなくして、住むようになり、現在に至っています。

今は約170所帯がわれわれの会に登録されています。最近では個人情報で電話番号などは把握できないため、その倍くらいは確実にいると思います。交流会には驚くほどの人数が集まります。

川崎沖縄県人会が結成されたのは大正13年です。その前から集まってやっていますが、三線の歌の先生が中心になり、会として組織したのが大正13年と記録があり、もう85年以上になります。

活動拠点の会館を十六年前に建て、維持管理のためには法人でないとまずいということで、認可を得て現在に至っています。今、新法への移行手続きをしていますが、なかなか苦勞をしています。

平成8年5月に、川崎市と那覇市が姉妹都市提携をしました。当時は職員の交流をしていました。昭和47年に沖縄が祖国復帰を実現するまで、川崎市職勞を含め多くの市民が政権変換運動に参加し大変お世話になりました。昭和35年の宮古島の台風では、島は壊滅的な被害を受けました。そのときも、宮古島支援のための募金を呼びかけ、多額の支援金を送りました。そのお礼として石敢當が贈られ、川崎駅前にも建立されました。石敢當は、魔よけや交通安全祈願など、いろいろな意味があるそうです。沖縄に行くと、あちこちにあります。川崎市と沖縄は関係が深く、これからも変わることはないと思っています。

戦争被害者という被害者意識だけの時代もありました。そうではなくて、今はふるさとの自然の良さを全国に発信しています。沖縄に行かれる方のほとんどは、沖縄を好きになって帰ってきます。



川崎駅前の石敢當

□沖縄芸能研究会の沿革について

現在、私は三線の担当をしていますが、420名ほど、歌から舞踊までいます。その半数以上は、沖縄と関係のない人たちです。ブームでそうなったのかと思いましたが、違うのですね。減りもせず、やや右肩上がりです。芸能関係ですから質の問題もあり、諸手を上げて喜んでみられませんが、うれしい限りです。指導に日夜努力をしています。

芸能研究会は、できるだけしてできました。歌、三線をしている人たちが集まり作りました。いろいろな人の名前があがっていますが、特筆すべきは、古江亮仁先生です。民家園の初代園長で大学の先生もしていました。この先生が、昭和12年頃、東京で大学生時代に沖縄から大挙して芸能団が来て、それを見て頭から離れない。川崎に赴任して、芸能の先生方がいるというのを聞いて、自ら足を運んで復活しようと尽力しました。この先生がいなければ、今の隆盛は無かったでしょう。昭和27年に川崎市が、異種文化を土着した民族芸能文化として文化財に指定しました。翌28年には神奈川県が指定しました。これは、亮仁先生が手続きなど何やら面倒をみてくれました。とくにわれわれは、芸能研究会の50年の歩みをまとめましたが、その50周年にこぎつけて、講演の日にあいさつをお願いしました。その後、すぐに亡くなりました。せかされて、早く50周年をやり、本当に50周年が終わったら亡くなりました。この先生がいなければ、今のわれわれの芸能研究会はありませんでした。

今日はせっかく集ってもらいましたので、後ほど琉球王朝時代の宮廷舞踊と、明治27年頃に創作された「花風」（ハナフー）という遊女の踊りをお見せします。

無形文化財というのは、川崎市と神奈川県が国に先駆けています。明治時代に創作された沖縄伝統舞踊が国の無形文化財に指定されたのは昨年です。当時は沖縄のラジオ、新聞が異種文化を文化財に指定したということで、大変報道機関が扱いました。沖縄県知事から神奈川県知事に感謝の電話が来たということです。

会員の構成は女性が圧倒的に多く、ほとんどは沖縄に行って沖縄を好きになり、沖縄芸能をやりたいという人です。だからやめることもなく、ずっと続けています。学校の先生方などは発音なども本当に勉強をしています。

【質疑・応答】

Q：私は横浜市鶴見区に住んでいます。沖縄の方と付き合いがあり、県人会の会長さんも良く存じ上げています。まず、川崎鶴見に沖縄の人が多いはなぜかと良く聞かれます。それは浅野総一郎が大正2年から昭和3年まで、150万坪を埋め立てて、京浜工業地帯の基礎を作った。その基礎的な仕事を沖縄や朝鮮の方がやってくれたから、今の川崎の大発展があるんだと話しています。なぜここに定着するようになったかですが、先ほどのお話にも次男、三男の仕事がないので、どうしても出稼ぎに来ざるを得なかったとありましたが、明治30年代と記憶しますが、政府の方針で沖縄の方がハワイへ移民をする、そのときに一回横浜に入り、ハワイで仕事ができるか、順応できるかという検査をして、何人かの方はハワイに行かずに横浜に残りました。と言って、沖縄を出るときに親戚その他から餞別をもらったので、沖縄には帰れないということで、横浜に定着をしたと聞いていますが、いかがでしょうか？

A：私も昭和44年にパスポートを持って川崎に来ました。そのときから勉強をしたのが、私の知識です。鶴見は川崎よりも歴史が古いと聞かされています。関東大震災の時に朝鮮人が迫害を受け、沖縄の間人も言葉がわからないから同一視されてやられたという事実もあります。僕よりも歴史に詳しいですね。アメリカ時代は移民政策です。ポリビアに行き、荒地に放り出されて苦勞しています。こういうのは、棄民政策と私は思っています。

Q：私は今でも“うちな一二世”と自己紹介をします。先ほどの話にはほとんどありませんでしたが、人種差別的なことを小学校当時から川崎で意識しておりました。たまたまお名前が出た古江亮仁先生が、26年前に黒潮の流れに沿ってというお話をされています。その中で、佐藤惣之助さんとの話をしました。石敢當は、川崎駅前にきちんと据えられましたが、民家園の壁のところにも目立たない形があります。その他にも、川崎の教育委員会では5、6個寄贈されているように聞いています。

A：差別の問題はありました。本当に相談を受けたこともあります。ただ、僕などは気にしない方です。だんだん理解をしてきて、今では感じなくなりました。逆差別ではないかと言われるくらいになりました。戦争被害者意識だけではダメだよ、生活者として共存し、地域の文化に馴染んだ方が良いだろうということでやっています。差別ということは言わないでいいのではないかと考えています。
石敢當は小さいものをいくつも持ってきた。それではダメですということで、駅前に大きな物をもって来ました。

Q：私は在日二世です。私の記憶では、沖縄放送が「遅すぎた政断」というタイトルで、昭和天皇がもっと早くに決断していたなら、沖縄の未曾有の犠牲はなかったというテーマで番組を作ったビデオがふれあい館にありました。今は紛失しています。もし、沖縄の関係で沖縄放送にルートがおありでしたら、もし残っていれば入手する手法がないかと思いました。

以前、「クォーターリーかわさき」という雑誌で、ある学者と対談をしたのですが、民族意識、沖縄の人の意識は差別の問題とも関係をするかも知れないけれども、民族芸能が民族性を担保し、持続させるという思いで対談をしました。芸能研究会に、沖縄以外の人たちも参加されていると聞いて、そういう場で沖縄の芸能が連綿としてつなげられていくということは、大変重要なことだと思いました。そういう意味で、法人化の問題もあるでしょうが、会館をぜひ確保し、今後ますます発展していただければと思いました。

A：ビデオはいろいろあります。沖縄戦を記録したビデオなどあります。

Q：アルゼンチンの日系社会でボランティア活動をしていたことがあり、中南米の人たちを支援するNPO

で活動をしています。先ほどの話にもありましたように、沖縄からハワイや中南米に移住した方が多く、ここ20年くらいはそういった人たちが日本に来て、川崎や鶴見に住んでいる方が多いです。川崎沖縄県人会や川崎沖縄芸能研究会に、沖縄系の海外からの日系人も参加しているのか、あるいは彼らは彼らでコミュニティを作り接点がないのでしょうか？

A：ブラジルやアメリカの移民の子弟は、鶴見の方の特別なボランティアの皆さんと交流しているようです。川崎にもそういう話が来れば交流します。鶴見の方ではエイサーなどを盛んにやっています。

東神奈川の飲み屋の外に、今から5、6年前に「沖縄出身をお断り」という看板が立ちました。酒癖の悪い連中が何かやったのだらうと思います。南米の子どもが来て、こんなことがあっていいのかということで、朝日新聞の記者と一緒に飲み屋に行き抗議をし、簡単にはずしてくれました。ブラジルから来たこどもたちは、大変なショックを受けたようです。

Q：藤崎に青少年の宿泊施設があると思いますが、機能などを教えてください。

A：昔は青少年が集団就職で来て、住むところが決まっていなくて、2、3ヶ月宿泊した施設です。建物はただでもらい、敷地は川崎市の土地です。今は老朽化してしまい、リフォームしないとちません。われわれは余裕がないので、いずれは土地をお返りする以外にないと考えています。自然に壊れるくらいに老朽化しています。じゃあ、住んでいる人たちをどうするかなど、微妙な問題を抱えています。リフォームする予定は、今のところありません。

Q：富士瓦斯紡績について、人減らして沖縄の年少の女性を雇った、酷使したという歴史がありますが、それについて何かありましたらお話しください。

A：酷使かどうかという問題はありますが、いくらかを支払って雇ったということであり、人身売買ではないと解釈しています。多摩川に入水自殺したと事実もありますが、まずいことは報道しません。ただ、見聞きして知っているだけです。事実そういうことがありました。確かに、沖縄出身という差別がありました。歴史の中でありましたと言わざるをえません、今はそういうことはないと思います。

Q：いただいた資料の川崎と沖縄のところに、最近はプライバシーで確かな数値がわからない、172とありますが、これは川崎市ですか、川崎区ですか。推計では何人くらいですか。

A：ほとんどが川崎区です。他の区にはいません。1,000名はくだりません。びっくりするほど二世、三世が集まります。両親が沖縄出身とは認識していない子どももいます。ただ、血を引いているだけだという若い子もいます。いろいろです。



かせかけ



花風

以上